

授業科目 健康栄養科学演習		科目概要・形式 2単位60時間(30コマ) 演習科目	配当年次 博士前期2年次 前期開講	オンライン参加 ☒ ・不可
科目責任者	七島 直樹			
担当者	井澤 弘美、今 淳、佐藤 伸、清水 亮、七島 直樹、乗鞍 敏夫			
1. 科目のねらい・目標				
健康栄養学科学特論で学んだことをもとに、健康と栄養の関わりについて、文献購読等から得られる最新研究情報を交え、演習をすすめる。				
2. 授業計画・内容 *この科目は選択した科目担当者が担当します。				
【井澤 弘美】 ①「環境汚染物質の経口摂取による毒性発現」、②「未利用資源を活用した食品開発」および③「必須栄養素を効率よく吸収・維持できる食品成分」に関する研究に関する国内外の論文を精読・討議し、最新の研究動向や実験手技を学ぶ。				
【今 淳】 1) 皮膚の加齢、抗加齢(アンチエイジング)や再生に関する学術雑誌を読み、討論することで、各著者の研究の進め方、データの解釈の仕方を習得し、この研究領域の最新情報の吸収と共に、自分自身の研究レベルを高め、レベルの高い学術雑誌に投稿できるための基盤造りをする。				
【佐藤 伸】 1) 分子栄養学的な最新情報や評価方法を理解するために、糖尿病や高血圧などの発症機構や食品成分による生理調節機能に関する国内外の学術雑誌を読み、さらに、その内容を人前で発表することによりプレゼンテーション能力や結果の解釈を討議する能力を培う。 2) 遺伝子やタンパク質の発現の評価に欠かせない手法および機器について学び、理解を深めることにより、トータルとして各自の研究推進や研究論文の作成に役立てる。				
【清水 亮】 以下のテーマに関する情報検索をし、今後の課題や発展性などについて討論する。 1) 高齢期における生活習慣病とフレイルの両方を視野に入れた食事・栄養療法について 2) 栄養管理プロセスについて				
【七島 直樹 】 1) フィトケミカルに関する国内外の学術論文を読み、最新の研究動向を把握し、各自の研究推進につながるよう討論する。 2) 各種アッセイ法および研究手法に関する最新情報を収集し、各自の研究への活用法を討論する。				
【乗鞍 敏夫】 1) 栄養素の必要量の設定根拠となる論文を読むことで、最新の栄養学の研究動向を把握し、栄養学の発展に必要な研究について討論する。 2) 遺伝子データベースに活用し、遺伝子発現解析(リアルタイムPCR)に用いるプライマーの設計法を演習する。				
3. 教科書、参考書 ・特に教科書は指定しない。各教員が資料を配布する。				
4. 成績評価方法 ・レポート(80%)、授業の参加度(20%)で単位を認定する。				
5. 受講要件 ・特になし。				
6. 社会人学生に対する配慮 受講生と相談の上、履修時間を調整する。オンライン授業対応可能。				
7. その他 ・オンデマンドは実施しません。				